

令和4（2022）年度

自己評価結果公表シート

社会福祉法人 真和会
幼保連携型認定こども園 菜の花こども園

1. こども園に移行した背景等

○1978（昭和53）年4月から2015（平成27）年3月まで仲沖保育園（認可保育園）として運営して参りました。

○昨今の子育てを取り巻く環境の変化から、地域子育て支援の重要性を強く意識し、園舎立て替え（平成18年完成）においては、地域に開かれた施設を目指し、子育て相談スペースや子育て支援の多目的ルームを整備したところです。

○園は諫早市の中央地区の交通の便が良い所に位置するため、市内各地からの入園が容易な場所となっています。園の周辺は、田畑、小川、河川の土手、公園、小学校、商業施設など、子どもの豊かな育ちに有益な社会資源に囲まれています。特に自然に恵まれた環境は、力強く生きる力の育成に適していると考えます。

○令和2年3月の諫早市の推計によれば、0～5歳の人口は、令和6（2024）年6,529人とされていて、平成27（2015）年7,278人から749人の減少予測となっています。

○教育・保育施設の利用ニーズを見てみると、平成31（2019）年は、幼稚園の利用定員1,780人に対する利用者は1,074人、保育園の利用定員3,909人に対する利用者は3,999人となっていることや3歳以上の幼児教育・保育の無償化においても幼稚園よりも認定こども園や保育園の希望が多い傾向にあると推測されます。

○保育園利用者においては、保育園における児童福祉のみならず、教育（いわゆる学校教育）の実施への期待も年々高まってきているのが現状としてあることから、認定こども園がもつ学校教育と児童福祉の機能へのニーズは今後より高まることが想定されます。

○就労以外の理由による入所希望、地域子育て支援の期待が増えている現状もあり、保育所機能と幼稚園機能を併せ持つ施設が必要であることから幼保連携型認定こども園の継続が不可避なことと考えています。

2. 教育及び保育の目標や理念

乳幼児期における教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ人格形成の基礎を培う重要なものです。本園における教育及び保育は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与え、心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援することにより、家庭や地域での生活を含め、乳幼児の生活全体が豊かなものとしていくことを目指しています。

また、年々増加している特別な配慮を必要とする子どもの支援、小学校における教育との連携、食育の推進はさらに質の高い取り組みが必要であると考えます。

3. 教育及び保育のねらい及び内容

- ・園生活を通して、生きる力の基礎を育成し、子どもの最善の利益を考慮しながら保護者ととともに園児を心身ともに健やかに育成する。
- ・園児一人一人が安心感と信頼感を持っていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにする。
- ・園児の主体的な活動を促し、乳幼児にふさわしい生活が展開されるようにする。
- ・遊びを通しての指導を中心として、教育が総合的に達成できるようにし、園児一人一人の特性や発達の過程に即した指導を行います。

4. 重点的に取り組む目標

これまでの保育園時代の経験に甘んじることなく、認定こども園第4年目として職種、職員が一つのチームであることを意識して、保育・教育の充実に主体的に取り組みました。

5. 評価項目別の達成および課題状況

項目	評価・課題
本園の教育・保育目標の認識度	「幼児教育・保育」についての考え方について園内研修等を積極的に行い、職員同士の意見交換により課題等の共有ができた。幼児教育のカリキュラムを作成し発展することができていることは、これまでの成果として捉えている。さらに具体的な実施方法について園全体で考えていくことが必要である。

項目	評価・課題
乳児・幼児・延長保育教諭間の連携	<p>園内研修の効果もあり、職員の意識は高まってきている。特に保育職員による不適切保育に関する意見交換に力を入れた。カリキュラムに関しても実践報告も踏まえ、意見交換しながら学びの場をつくっている様子がうかがえる。</p> <p>担任と延長保育教諭との申し送りに課題がないよう、報・連・相を徹底させる。</p>
各職種間の連携	<p>保育と調理部門の調整力が高まってきている。お互いの立場を理解し連携することができるようになってきている。</p> <p>日常的なコミュニケーションを図ることを全職員が心がけ、こどもたちの毎月の身体測定や健康診断の情報の共有を引き続き強化していく。</p> <p>コロナ感染症により開催が難しかったクッキングについても徐々に再開し、行事の計画から実施にいたるまでの連携の課題も解消できている。</p>
保育・教育内容	<p>「心を育てる」「学びは遊びから」をモットーにこどもと接することを全員が心掛けることを重要視している。</p> <p>『現場発信』を重視し、様々な意見交換を職員同士で行い、「子どもにとってよい環境とは何か」を中心に据え、教育・保育の内容について検討、実施、検証の繰り返しが必要。</p> <p>2018年度から英語教育を導入。2023年4月からは、ECCの習い事も導入する。</p>
研修	<p>園内研修の機会を定期的にもつことで、職員の自己の課題、担当現場の課題、園全体に対する課題点を認識する職員が増えた。園内研修の有効性を確認している。</p> <p>パート職員の研修参加も増やすことができた。</p> <p>また、キャリアアップ研修の受講費用補助制度により、受講者及び回数を増やすことができた。</p>

項目	評価・課題
安全への取り組み	<p>月1回各種の避難訓練を行いながら改善点を共有することを重点目標とした。</p> <p>本番をいかに想定し訓練するが重要であり、二次避難を行う必要性の理解を図った。不審者対策について更なる意識改革、具体的な実施が必要。</p>
特別支援	<p>特別な配慮を必要とする場面が増えてきており、個別支援計画の必要性を感じている。今後の課題として、園全体での取り組みの推進が引き続き必要。</p> <p>職員個々の学びを深め、職員同士の事例検討など、特別支援教育のあり方が今後の課題。さらに専門家の定期的な関わり、連携の必要性を感じている。</p>
保護者との連携	<p>保育参観ウィークの再開、1年間の製作展示の再開など、実際の保育・教育の様子を見て頂くことで園の方針等の理解を深めていただくための環境づくりを行った。保護者会からの提案を丁寧に検討し、次年度計画に反映した。</p>
地域子育て支援	<p>リトミックを毎週定期的に行う取り組みとベビーマッサージに力を入れた。</p> <p>園庭開放や同年齢児クラスの活動参加など好評いただいた。内容や回数の見直し検討。</p>
幼小連携	<p>小学校との連携の内容が年々充実しつつある。特に諫早小学校においては積極的に中心的役割を担っていただいている。</p> <p>定期的な学校教諭等とのミーティングの実施、双方の教諭が見学、意見交換することを継続的に行いたい。</p>
取り組むべき具体的な課題	<p>『食育』の重要性－食事環境、食事のマナー、食の楽しさを感じさせる工夫。</p> <p>『遊び』の環境づくり－遊びの質を高めること、遊びの内容を充実させる。次年度は手作りおもちゃを重要視してみる。</p>

	<p>会議、園内研修の充実度を高める。特に特別支援に関する学習の充実について。</p>
<p>総評</p>	<p>新型コロナウイルス対策に在る活動の縮小実施に年度となり、子どもたちの教育・保育の機会や環境設定に大きな制約を課してしまっている現状が継続している。</p> <p>感染症の動向にもよるが、こどもたち、保護者にとって有意義な教育・保育のあり方を追求していく姿勢が求められている。</p> <p>前年度に引き続き、『体育、音楽、製作、ことば、自然環境』これら5つの分野で研究活動を各リーダーを中心に計画立てて推進したことが評価できる。職員各自の幼児教育に係る意識を高める取り組みであることが評価できる。</p> <p>園児や保護者、地域の子育て支援を必要とする世帯に必要とされるサービスの充実を図るため、計画を立て、実行し、反省し、計画を見直していく過程が園全体で重要なことであることについての認識も高まっている。</p> <p>しかしながら、幼児の教育・保育に携わる集団としては、『気づきの力』を身に付ける習慣づくり、危機管理能力、意識の持ち方が園全体としての今後の課題である感がえる。</p>

令和5年2月21日

諫早市仲沖町543番地2
 社会福祉法人 真和会
 菜の花こども園 園長 土井淳一